

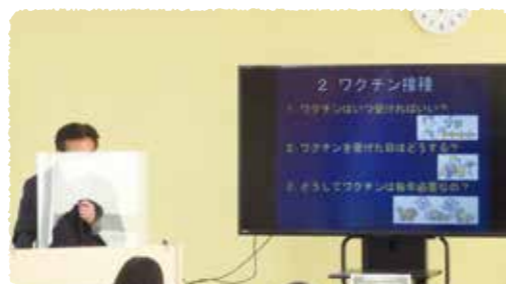
## 6. ボランティア養成講座を開催しました

動物愛護に関わるボランティア活動を始めたい方、動物愛護管理について学んでみたい方を対象にボランティア養成講座を開催しました。

計4回(7月、9月、1月、2月)実施し、78名の方が参加されました。センター職員から、人と動物との調和のとれた共生社会づくりの実現に向けてしっぽの森の役割や取り組んでいる事業についてお話し、実際に活動されている譲渡ボランティアや動物愛護推進員、地域猫活動に携わっている方から活動の成果や体験談などを紹介していただきました。また、動物病院の獣医師から犬猫の行動学や動物福祉に配慮した飼養管理、健康管理や疾病予防についてご講演していただきました。適正飼養についての基礎知識を得ることにより、ボランティア活動を円滑に実施していくための一助となることを願っています。

しっぽの森では、動物愛護啓発や、犬や猫の譲渡推進のため、様々なイベントを行っています。

各イベントの詳細は、しっぽの森のホームページでご紹介しています。是非ご覧ください。



## しっぽの森Instagramのご紹介



しっぽの森では、Instagramで譲渡動物やイベントなどの情報を発信しています。しっぽの森でトレーニングを頑張る犬や、ふれあいルームでくつろぐ猫、イベント開催の様子など、様々な写真と共に、しっぽの森の様子をお伝えしています。

@sanuki\_shipponomori



是非一度、Instagram「しっぽの森\_さぬき動物愛護センター」をご覧ください。



1. しっぽの森の譲渡等の活動について
2. 子犬の社会化について
3. 子猫の行動学について
4. 譲渡ボランティア活動報告
5. 新しい家族を迎えて  
～しっぽの森から譲渡した犬や猫たち～
6. ボランティア養成講座を開催しました

## 1. しっぽの森の譲渡等の活動について

平成31年3月、しっぽの森は動物愛護管理の普及啓発や、犬や猫の譲渡の推進等の拠点施設として開所しました。今回は、しっぽの森が開所してからの譲渡数、殺処分数の変化や、しっぽの森の取り組みについて報告します。

しっぽの森開所以降、譲渡ボランティアの方々のご協力のおかげもあり、犬も猫も譲渡数は増加、それに伴い殺処分数は大幅に減少しています。しかし、猫の殺処分数は全国中位であるものの、犬の殺処分数は依然全国ワーストの状態が続いており、令和元年度で2,219頭と全国で最も多い犬の収容数を減らすことが、さらなる殺処分数の減少につながると考えています。しっぽの森では、野良犬、野良猫を削減するため、飼い始めた最後まで責任を持って飼うこと、みだりに繁殖させないことや、無責任に野良犬や野良猫に餌を与えないことなど、動物愛護管理の普及啓発に努めています。また、飼い主に対して犬のしつけ教室、猫の飼い方教室など様々な機会を通じて適正飼養を啓発するとともに、子どもの頃から「いのちの大切さ」や「思いやり」の心を育み、ペットを飼う時の心構えや正しい知識を身に付けることを目的とし、小中学生用テキストの配布、校外学習の受け入れや県内の学校等において動物愛護教室を開催するなど動物愛護教育にも取り組んでいます。そのほか、県内各地での譲渡会を開催、しっぽの森での譲渡ボランティアによる譲渡会を行っています。コロナ禍のため、イベントの参加人数の制限を行うなどご不便をおかけしておりますが、今後も人と動物との調和のとれた共生社会づくりに向けたイベント等を開催し、多くの方にしっぽの森を利用いただけるよう、取り組んでまいります。

	譲渡数		殺処分数	
	平成30年度	令和元年度	平成30年度	令和元年度
犬	892頭	1,189頭	1,522頭	920頭
猫	353匹	512匹	739匹	455匹





## 2. 子犬の社会化について

社会化とは、犬が生まれて社会行動パターンを身に付けていく過程をいい、特に高い感受性をもって行動を学習する時期を社会化期といいます。一般に犬では、3～12週齢が社会化期となります。この時期に適切なしつけをしていくと将来飼いやすい犬になります。刺激や環境に対して「良いイメージ」で学習させて「慣らす」ことが大切です。しっぽの森では、以下のことに気をつけて飼養管理しています。

### 人に対する社会化

知らない人を必要以上に怖がることのないよう、いろいろな相手からフードやおやつを与えてもらっています。子犬を怖がらせないように注意して行います。



### ものに対する社会化

人間社会で生活するため、日常生活にあるものを使用しても過剰に怖がったり、興奮しないよう、慣らしています。



### 犬同士の社会化

子犬は自分の母犬や同腹の兄弟犬との触れ合いの時期に、遊びを通して、犬同士のボディランゲージや咬みつく力の抑制を学びます。こうした経験をしてあげれば、その後、人の手を咬んではいけないことも教えるようになります。



### 体のあちこちを触る練習

優しく声を掛けながら体全身を触ります。足先、口元など先端部分は敏感なところ。フードやおやつを使いながら慣らしていきます。また、しっぽの森では動物病院での診察に慣れるよう診察台でスタッフからごほうびをあげるようにしています。



## 3. 子猫の行動学について

### 知っておきたい猫の行動学!

猫と犬とは飼い方が全く異なります。猫に対する対応によってはストレスの原因となることもありますので、飼い主さんになられた方は、以下の行動学を知っておきましょう。

#### ●猫は単独で行動し、警戒心が強く、とてもデリケートな動物

見知らぬ人や環境に対して非常に警戒します。また、縄張り(テリトリー)意識が高いため、警戒心が強く様々な刺激に敏感です。安全で安心できる場所(段ボール箱など身を隠せるものや、見晴らし台など周囲を監視でき、邪魔されない場所)を用意してあげましょう。



#### ●猫のコミュニケーション

視覚、聴覚、嗅覚(爪とぎ、マーキングなども含む)、触覚を通じて猫同士コミュニケーションをとります。その手段として特徴的なボディランゲージをとり、気分や意図を表現します。しっぽの森では、子猫同士の社会的遊びを通じて適切なコミュニケーションをとれるよう、個々のペース・好みにあわせた交流・遊びを行っています。



#### ●猫には捕食本能がある

猫は本来、獲物を単独で捕まえて食べる動物です。家庭で飼われている猫にも捕食行動の本能は残っており、おもちゃを獲物に見立てて、捕食欲求を満たしながら遊びます。おもちゃで遊ぶ方法やフードやおやつで遊ぶ方法もあり、数種類ずつ準備しておき、飼い主さんと遊ぶとよいでしょう。



#### ●猫は高い場所に登ることを好む

犬とは違い上下運動するのが特徴で、自由に高い場所に登ることができます。本来、高いところにいる方が獲物を見つけやすく攻撃される危険が少なく安心して休めるからです。大切な行動ですので室内にそれができるような場所を用意してあげましょう。



#### ●猫はキレイ好き

グルーミングは自身の体を舐めることで汚れを落として清潔に保つためのものです。また、清潔なトイレを好み、排泄物には砂をかぶせて隠します。猫によって好む猫用トイレの嗜好性は異なるので十分検討する必要があります。トイレに排せつしたらできるだけ早く除去し清潔に保ちましょう。



## 4. 譲渡ボランティア活動報告

このコーナーでは、譲渡ボランティアの活動を紹介します。今回はにくきゅーハイタッチさんにお話を聞きました。

はじめまして!「にくきゅーハイタッチ」です。犬も猫も大好きでたまらないメンバー全員の共通の想いは、「ケアが必要な子にも可能な限り手を差し伸べたい」。

### 活動

- ミルクボランティアとして乳飲み子のお預かり
- 病気、怪我、人馴れしていないなどの理由ですぐには譲渡が難しいと思われる子のお預かり

医療ケアが必要な子が多いのですが、通院はメンバーで協力して行っています。預かっている人だけではなく、より多くの人と触れ合うことが、動物にとってはとても良い経験になっています。お預かりしている動物の様子や適切な譲渡の時期を頻りに話し合い共有することで、メンバー同士の連携も深まります。ミルクボランティア、ドッグトレーナー、猫に詳しい等、メンバーそれぞれの得意分野を生かし協力しながら、その子の個性やペースを大切に日々かかわっています。譲渡までに時間がかかる子もありますが、そんな子達にご縁が繋がった時の喜びはひとしおです。また、皆さまからの温かいお気持ちに支えられ、県内で譲渡会を開催したり、今はお休みしていますが県外の譲渡会に参加させていただいたりしています。

Instagramにて随時ご案内していますので、大切に育てた可愛い犬猫たちに是非会いに来てくださいね!



NIKUKIYUHAITATSUCHI



▲事故にあつて断脚手術をしたシャークくん



▲パペシアの治療をしながらトレーニング頑張りのパールくん。笑顔も見られるように♪

どの子も皆幸せになってもらいたいの想いで活動しています。

### 譲渡ボランティアって?

しっぽの森から犬・猫を譲り受け、人なれや、健康管理を行って新しい家族探しを手伝ってくださっている人たち。「譲渡ボランティアをやりたい」、「自分の家庭環境や住宅で、譲渡ボランティア活動ができるだろうか?」など、気になることがある方は、是非一度しっぽの森までお問い合わせください。

## 5. 新しい家族を迎えて～しっぽの森から譲渡した犬や猫たち～

しっぽの森卒業生の新しい暮らしを紹介します。

今回は、ピノちゃん、フランちゃんとの新たな生活を始められたFさん母娘よりおたよりをいただきました。

### 娘さまより

ピノちゃんとフランちゃんをお迎えて2カ月半。元々、極度の怖がりになつてしまっていた位かかると言われていたのですが、最近ではたまにですが、少しだけフランちゃんは抱っこできるようになりました。ピノちゃんは、まだまだといった感じですが、ピノちゃんが一番なついている父が根気よく撫でていた時に自分からひざの上ののつてきたことがあったようで、少しずつ距離が縮まっていると感じています。また、ケージとこたつの外では近寄ると慌てて距離を取られることが多いですが、ゆっくりこのペースでなじんでくれたら嬉しいです。最後に、フランちゃんとピノちゃんを譲って頂きありがとうございました。



### お母さまより

フランちゃんとピノちゃんを迎えてから、最初はケージの中だけにしていたのですが、外へ出たそうにしているの、今はリビングでは自由にさせています。寒い時期はほとんどこたつの中にいます。最初はおびえていましたが、フランちゃんは時々近寄ってきてくれて、5分くらいは抱っこできるようになりました。主人が家で仕事をしている関係で、ピノちゃんは主人にはなついているようです。一緒に布団で寝られるくらい、家族でかわいがって幸せにしてみせます。

